

第 1 演習室、CAD室での電子メール取り扱い

情報処理センター 大淵 寛

．はじめに

- 1．本説明書の必要性

平成 16 年度末に導入した教育用電子計算機システム（情報処理センターと CAD 室のシステムを合わせてこう呼んでおります。）の新設備では、端末 PC の WindowsXP Professional とサーバの連携で、どの端末を使ってもユーザ別に設定された環境で迎える仕組みになっています。メニューや壁紙がユーザ別に変更可能な他、メーラ（電子メール送受信ソフト）もユーザが設定した内容が自動的に全端末で再現するようになっています。

このような機能は OS のコンポーネントや同じ開発元のソフトウェアの場合ならではのもので、ここで紹介する Outlook (Microsoft Outlook 2003) の場合は典型的です。同じユーザならどの端末を使っても同じ設定が再現されるので、一度設定ができれば後はとても手間が省けるシステムなのです。

しかし、設定方法が一般の方法と違う部分があり、端末でのエラーメッセージが独特で違和感があったりして（最初の設定時だけなのですが）、初期の設定中に使用を断念するユーザも見受けられました。そこでこのようなユーザの不安を解消し、特に学生が最初の設定や基本的な操作の段階で悩まなくてすむよう図解します。

- 2．本説明書の基本方針

- ・情報処理センター第 1 演習室または CAD 室のパソコンで電子メールを使うための手引きとなること。
- ・授業で使う資料として役立つこと。
- ・初心者向けの内容とすること。
- ・Microsoft Outlook 2003 をとりあげる。

．対象とするメーラ（電子メール送受信ソフト）の概要紹介

ここでは Outlook (Microsoft Outlook 2003) を取り上げて説明します。本校の教育用電子計算機システムの端末には OS に付属した Outlook Express (アウトルック エクスプレス) があります。これも同様にユーザ別の設定を再現する機能があり、本校システムでもそれが自動的に働く仕組みになっていますが、前者の方が後者より多機能で説明の必要性が高い（やや複雑な）ことから前者 Outlook の方を説明することにします。これにはメール機能の他、予定表・連絡先管理・仕事管理・メモなどの補助機能があります。詳細説明はメール機能部分に止めることにします。

．電子メールのパスワードの初期登録・変更方法

- 1．パスワード性質と条件

本校学生と教職員は全て本校電子メールシステムでのユーザとして登録されています。しかし、専攻科生以外の学生についてはメールを読むための**初期パスワードはユーザ自身で登録しなければなりません**。（専攻科生徒や職員については管理者が予め初期パスワードを登録しています。）

初期パスワードが設定されている場合でも、速やかにユーザ自身で独自のものに変更する必要があります。また、パスワードはたまに**ユーザ自身で変更してセキュリティの低下を防ぐべきもの**です。

電子メールのユーザ名やパスワードは情報処理センターの LAN 管理室に設置されたサーバにリストがあり、ユーザはこれに校内 LAN を介してアクセスして書き換えます。

まず、どんなパスワードにするか、次に示す条件を踏まえてから決めてください。アルファベットの大文字と小文字は区別されます。Windows へのログオン時のパスワードの条件よりも厳しいので、両方のパスワードを同じにしたい場合にはこの電子メールのパスワードの条件で考えておけばよいことになります。

**** 電子メールのパスワードの条件 ****

- (1) 6文字以上であること。(8文字まで有効で、9文字目以降を入力してもエラーは無いが、その分はサーバには伝わらないので無意味な入力となる。)
- (2) 2文字以上のアルファベットと1文字以上の数字または特殊文字を含まなければならない。
- (3) 変更する場合には、古い方のパスワードと3文字以上の違いがあること。
- (4) ユーザ名と同じスペリングやその逆のスペリングを含まないこと。

有効なパスワード例

5#fujisan dog!cat

パスワードを考える際には、他人から簡単に見透かされる文字列にしないことが肝心です。最低、次に示す例は避けるべきです。

悪い例

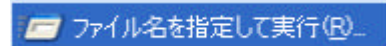
- ・ ユーザ名に基づく文字列
- ・ 電話番号
- ・ 生年月日
- ・ 自動車のプレート番号
- ・ 自分の趣味に関連する名前

- 2 . Telnet (テルネット) でサーバにアクセスする

さて、実際に電子メールのパスワードを管理しているサーバにアクセスするためには Windows に付属している Telnet (テルネット) を使います。これは遠隔端末エミュレータと呼ばれる種類のソフトで、起動後は文字コマンドで操作します。

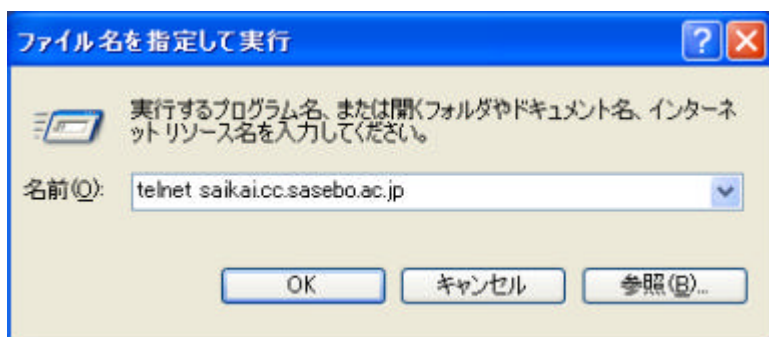
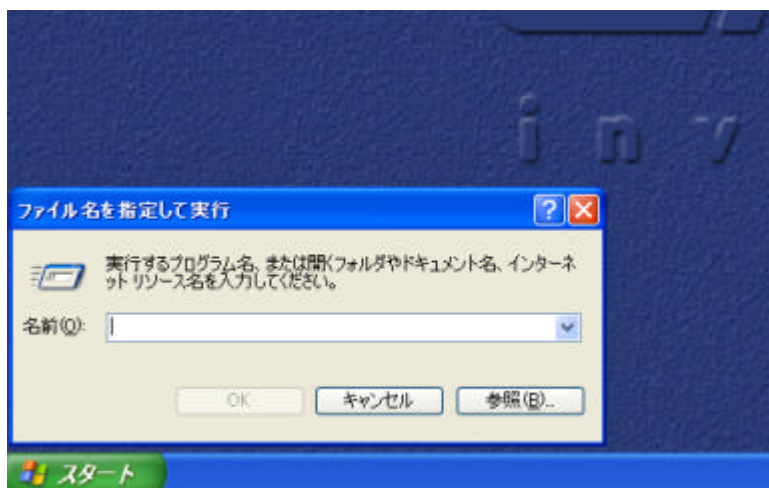


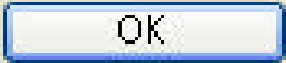
telnet (テルネット) を起動するために、



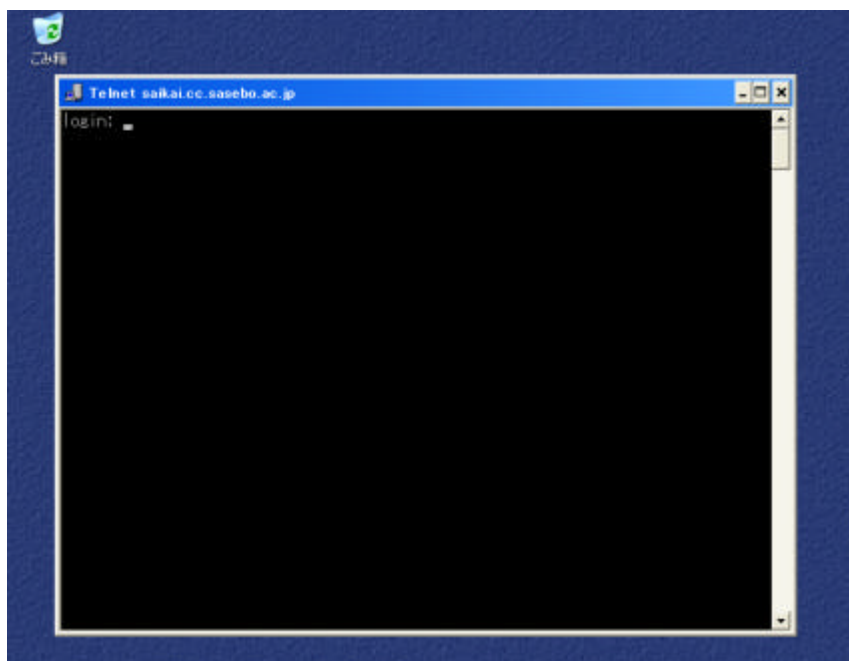
の順にクリックしてください。

すると、下図のとおり「ファイル名を指定して実行」なるボックスが現れます。



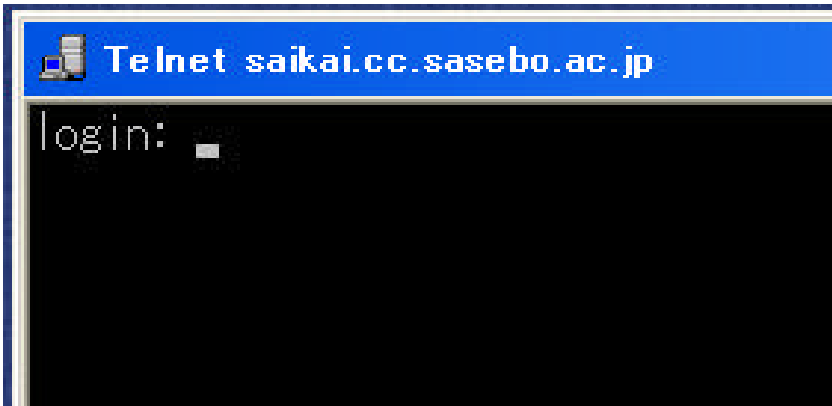
サーバ saikai に接続するために名前欄に「telnet saikai.cc.sasebo.ac.jp」と文字入力し、
 をクリックしてください。

すると、下図のように Telnet の画面が現れます。



- 3 . サーバへのログイン

Telnet の画面には下図のように「login:」と表示されているのが見えるでしょう。



ここで左図のようにユーザ名を文字入力して「Enter」キーを押してください。

この例では「m0043」と入力しています。

初期パスワードが登録されていない場合

下図のように初期パスワードの入力を求められます。

「Choose a new password」と表示されるでしょう。



ここで先に述べたパスワードの条件を満足する文字列をキー入力してください。最後に「Enter」キーを押せば入力がサーバに伝わります。

ただし、**入力する文字は画面には表示されません**。横から覗き見された場合でもセキュリティを保つためです。

```
Telnet saikai.cc.sasebo.ac.jp
login: m0043
Choose a new password.
New Password:
Re-enter new Password: █
```

「Re-enter new Password」と表示されますので、再度同じパスワードを入力して「Enter」キーを押してください。

正常に初期パスワードを登録できた場合には下図のとおり表示されます。

```
Telnet saikai.cc.sasebo.ac.jp
login: m0043
Choose a new password.
New Password:
Re-enter new Password:
telnet: password successfully changed for m0043
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.10 Generic January 2005
saikai% █
```

- 4 . Telnetの終了

ここで「exit」又は「logout」とキー入力して「Enter」キーを押せば、サーバとの接続が切れてTelnetが終了します。

- 5 . パスワードを変更するためにTelnetでサーバにログインする

さて、ここまでは初期パスワードの登録方法でしたので、在学中に只の一回だけの作業です。その後のパスワードの変更方法について説明します。

まず「 - 1 . パスワード性質と条件」述べたことに従って変更後のパスワードを考えておきます。

次に、「 - 2 . Telnet (テルネット) でサーバにアクセスする」と、「 - 3 . へのサーバログイン」に示した手順でログインしてください。ただし、初期パスワードの登録は終わっていますので、ユーザ名を入力するとパスワードを問われます。

```
Telnet saikai.cc.sasebo.ac.jp
login: m0043
Password:
```

パスワードをキー入力して「Enter」キーを押してください。
入力する文字は画面に表示されません。

入力ミスがなければログインでき、下図のとおり表示されるでしょう。

```
Telnet saikai.cc.sasebo.ac.jp
login: m0043
Password:
Last login: Mon Mar  6 09:53:52 from 192.168.20.140
Sun Microsystems Inc.  SunOS 5.10      Generic January 2005
saikai% _
```

Telnet によるログイン時にユーザ名やパスワードの入力ミスがあった場合の応答メッセージは次のように表示されます。

```
Login incorrect
login:
```

この場合にはユーザ名から入力し直してください。

- 6 . パスワード変更のためのコマンド (psw)
パスワードを変更するコマンドとして「psw」を使います。

従来使っていたコマンド「yppasswd」との比較

実は、従来はこの目的のコマンドとして「yppasswd」使っていたのですが、サーバからのメッセージが日本語になるので、全角日本語文字が表示できない Windows 付属の Telnet 画面では意味不明の表示になってしまう欠点がありました。

「psw」では自動的にサーバからのメッセージを英文で表示する仕組みにしてありますので、字化けがありません。使い方は、「yppasswd」と「psw」は全く同じです。日本語入出力が可能な端末エミュレータ (teraterm など) を使う場合には、入出力の漢字コードを EUC に設定すれば正しく表示できますので、「yppasswd」を使う利点があります。

```
Telnet saikai.cc.sasebo.ac.jp
login: m0043
Password:
Last login: Mon Mar  6 09:53:52 from
Sun Microsystems Inc.  SunOS 5.10
saikai% psw
```

左図のように
「psw」とキー入力して
「Enter」キーを押して下さい。

すると下図のとおり表示されます。

```
Telnet saikai.cc.sasebo.ac.jp
login: m0043
Password:
Last login: Mon Mar  6 09:53:52 from 192.168.1.1
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.10 Gen
saikai% psw
yppasswd: Changing password for m0043
Enter existing login password:
```

ここで現在のパスワードをキー入力して「Enter」キーを押して下さい。

入力する文字は画面に表示されません。

```
Telnet saikai.cc.sasebo.ac.jp
login: m0043
Password:
Last login: Mon Mar  6 09:53:52 from 192.168.1.1
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.10 Gen
saikai% psw
yppasswd: Changing password for m0043
Enter existing login password:
New Password:
```

左図のように「New Password:」と表示されたら、新しく考えたパスワードを入力して「Enter」キーを押して下さい。

入力する文字は画面に表示されません。

```
Telnet saikai.cc.sasebo.ac.jp
login: m0043
Password:
Last login: Mon Mar  6 09:53:52 from 192.168.1.1
Sun Microsystems Inc. SunOS 5.10 Gen
saikai% psw
yppasswd: Changing password for m0043
Enter existing login password:
New Password:
Re-enter new Password: █
```

左図のように「Re-enter-New Password:」と表示されたら、再度同じ新しいパスワードを入力して「Enter」キーを押して下さい。

入力する文字は画面に表示されません。

下図（部分）のように表示されたらパスワードの変更は成功です。

```
passwd: password successfully changed for m0043
saikai% █
```

「exit」又は「logout」とキー入力して「Enter」キーを押せば、サーバとの接続が切れて Telnet が終了します。

psw コマンドでの入力ミスや条件違反の場合の応答メッセージの例を示せば、次のとおりです。

- ・現在のパスワードの入力でミスがあった場合
yppasswd: Sorry, wrongpasswd
Permissiondenied
(pws コマンドは終了しますので、コマンドからやり直してください。)
- ・新しいパスワードの入力で文字数が足りなかった場合
passwd:Password too short - must be at least 6
characters.
Please try again
New Password:
(条件を満たす文字列で入力し直してください。)
- ・新しいパスワードの入力で文字種類が足りなかった場合
ここでは全部アルファベットを使った場合の応答例
passwd:Thefirst8 characters of the password must
contain at least 1 numericorspecialcharacter(s).
Please try again
New Password:
(条件を満たす文字列で入力し直してください。)
- ・新しいパスワードの入力でユーザ名と同じスペリングを使ったために拒否された場合の応答例
passwd:Password cannot becircularshift oflogonid.
Please try again
New Password:
(条件を満たす文字列で入力し直してください。)

・電子メールアドレス

今、本校のユーザである m0043 君宛てに外部から電子メールを送ろうとすれば、その宛先は下記のとおりになります。

m0043@post.cc.sasebo.ac.jp

これが電子メールアドレスと呼ばれるものです。

この書式は全世界に通用するもので、いわば、「人名@住所」の形になっています。

「@」以降は住所として認識されるものと理解すればよいでしょう。

住所の部分は「.」(ピリオド)で区切られたアルファベットや数字が並び、その順番は、「沖新町・佐世保市・長崎県・日本」に喩えられるものとなっています。

この「@」以降の文字列の意味は次のとおりです。

post	メールサーバの名前
cc	校内ネットワークの名前
sasebo	組織名(国内唯一の名前で、佐世保高専を意味する)
ac	組織の種類(教育・研究機関を意味する)
jp	国名(日本を意味する)
.(ピリオド)	上記各文字列の区切り

この「@」以降は本校内ならどの場所でも同じですので、結局、本校の全ての利用者のメールアドレスは次のとおりになると覚えてください。

ユーザ名@post.cc.sasebo.ac.jp

. Outlookの設定・使用方法

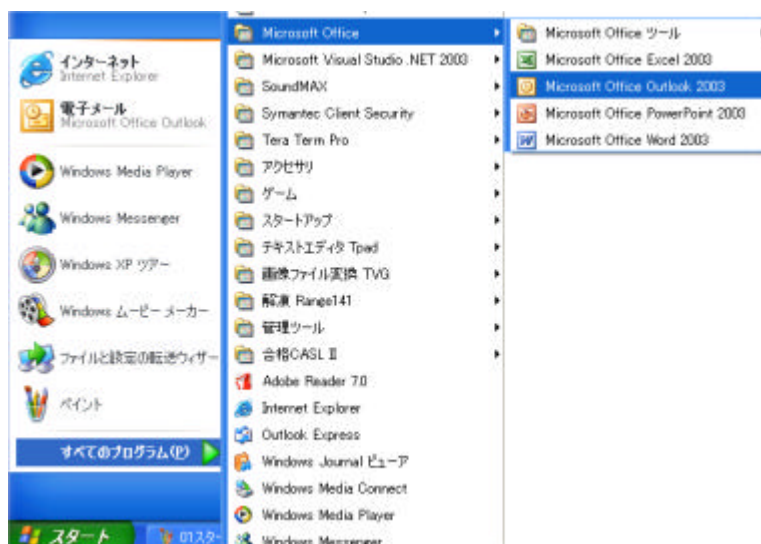
- 1 . Outlookの起動



Windows 画面端の

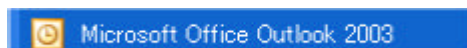
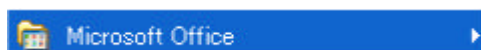


をクリックしてメニューを表示します。



ですぐに起動できます。

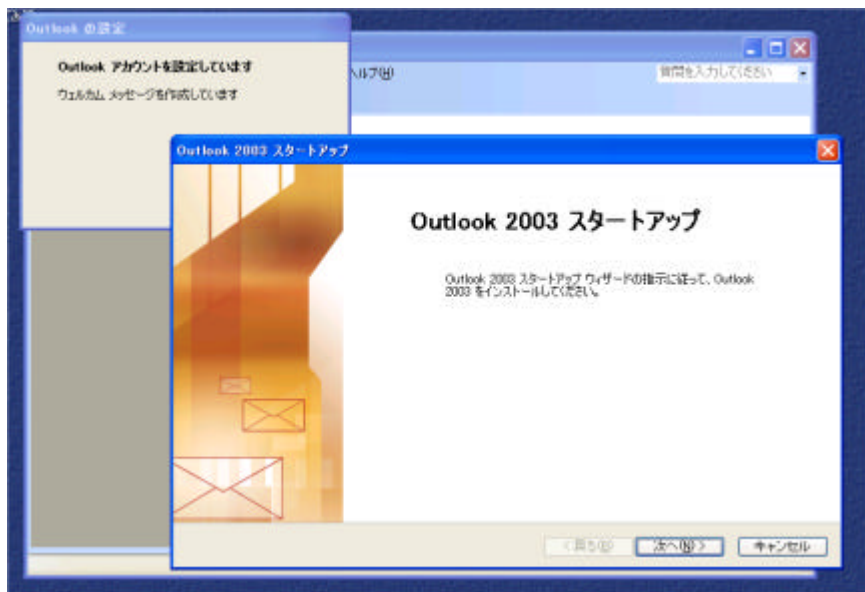
又、



と順にクリックしても同様に起動できます。

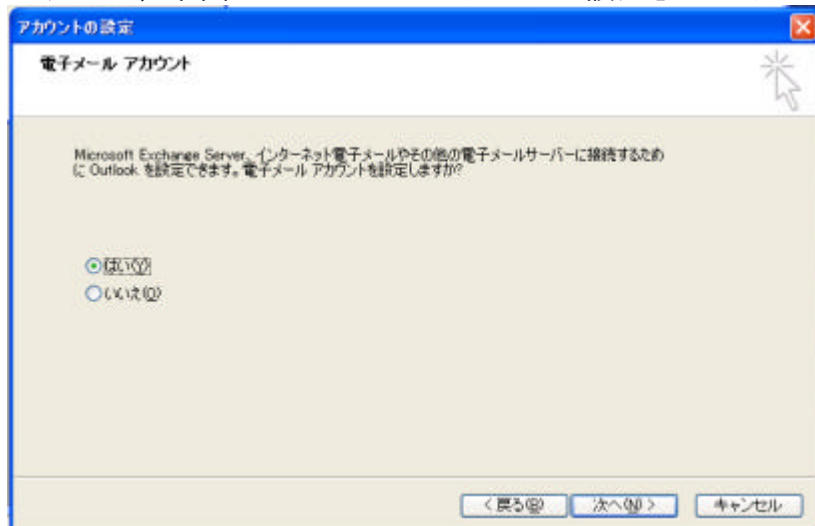
- 2 . 各種設定作業開始

初めて Outlook を起動すると、下図のとおり初期設定用のボックスが現れます。



ここでボックス内右下の
"次へ(N) >" を
クリックして下さい。

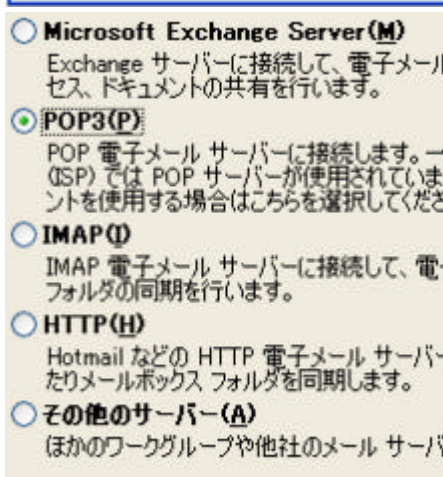
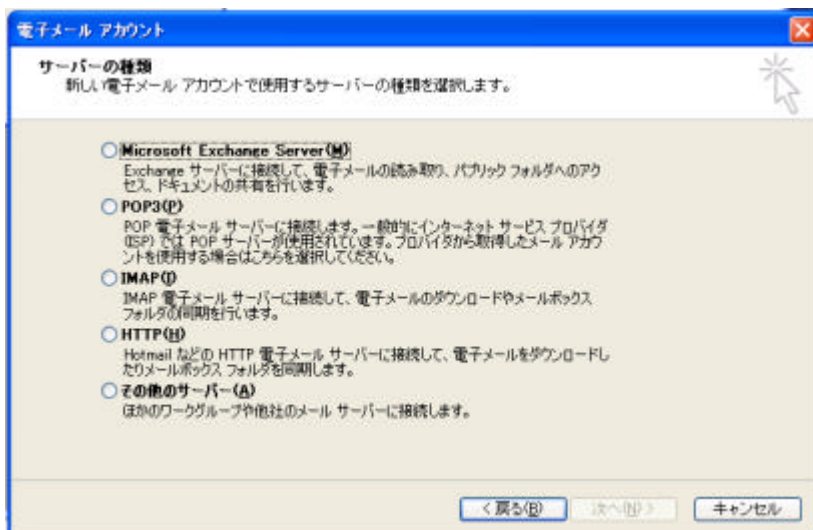
すると、下図のとおり「アカウントの設定」ボックスが表示されます。




ここでボックス内右下の
"次へ(N) >" を
クリックして下さい。

- 3 . 受信方式の選択

次の図のとおり「電子メールアカウント」ボックスが表示されますので、ここで本校システムに適合する受信方式を選択します。

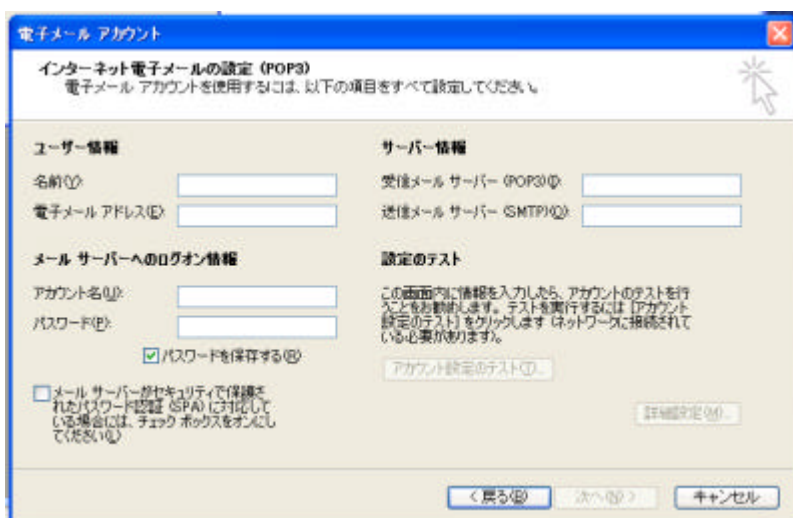


ここでは本校のシステムに合わせて「POP3」を選択してください。

そして、ボックス内右下の  をクリックして下さい。

- 4 . アカウント関係の設定

下図のとおり「インターネット電子メールの設定 (POP3)」ボックスが現れますので、ここでユーザ情報や送受信サーバの指定を行います。



次の例のようにユーザに合わせて空欄に情報を書き込んでください。皆さんの電子メールアドレスは、

ユーザ名@post.cc.sasebo.ac.jp となります。

この例は、ユーザ名「m0043」、名前「みなもと しずか」の場合です。

ボックス内右側のサーバ情報は全ユーザで共通です。

この例では、

「電子メールアドレス(E)」欄には「*m0043@post.cc.sasebo.ac.jp*」(斜体文字部分はユーザ名に合わせる)

「受信メールサーバ」欄には「post.cc.sasebo.ac.jp」と、

「送信メールサーバ」欄にも「post.cc.sasebo.ac.jp」と記入してください。

ユーザー情報

名前(N): みなもと しずか

電子メール アドレス(E): 043@post.cc.sasebo.ac.jp

メール サーバへのログイン情報

アカウント名(U): m0043

パスワード(P):

パスワードを保存する(R)

メール サーバがセキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) に対応している場合には、チェック ボックスをオンにしてください(L)

サーバー情報

受信メール サーバ (POP3)(I): post.cc.sasebo.ac.jp

送信メール サーバ (SMTP)(O): post.cc.sasebo.ac.jp

設定のテスト

この画面内に情報を入力したら、アカウントのテストを行うことをお勧めします。テストを実行するには [アカウント設定のテスト] をクリックします (ネットワークに接続されている必要があります)。

アカウント設定のテスト(T)...

詳細設定(M)...

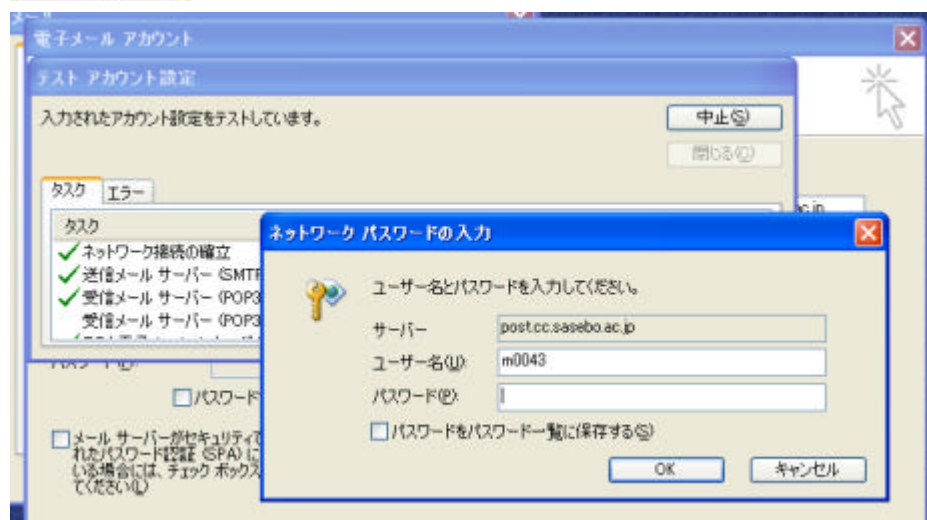
「パスワードを保存する(R)」のチェック印は消して下さい。

- 5 . アカウント設定のテスト

前示の例に従って空欄に書き終えたら、

ボックス内中央の **アカウント設定のテスト(T)...** をクリックしてください。

するとテストが開始され、下図のとおり「ネットワークパスワードの入力」ボックスが現れます。この「パスワード(P)」の右空欄を指定して、「」で登録したパスワードを入力して、**OK** をクリックしてください。



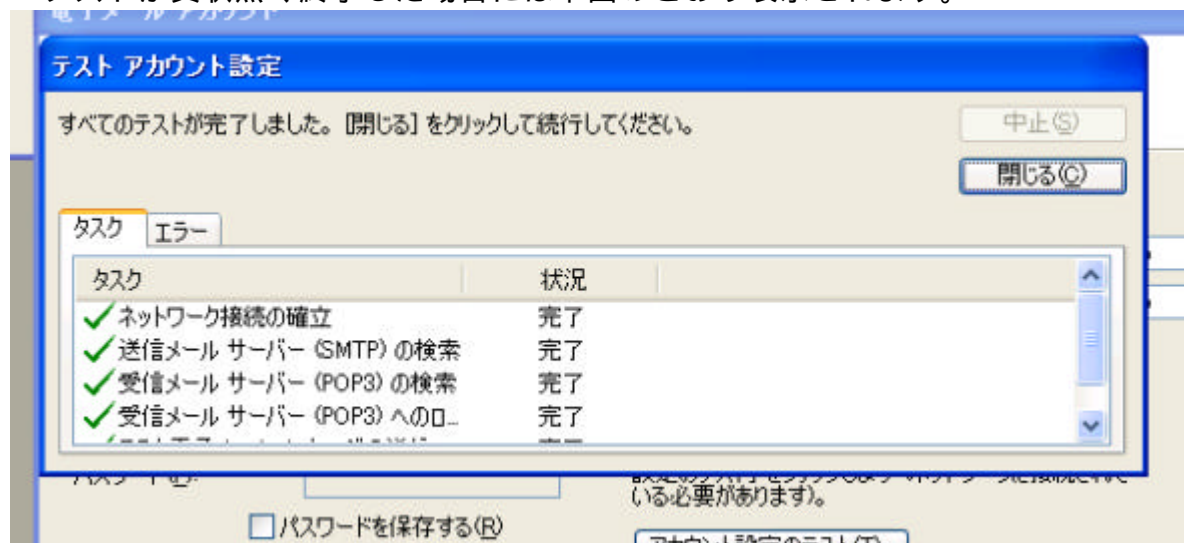
注意 !

ここで受信されたメッセージは後で消えてしまいます。既に自分宛にメッセージが送られていると予想される場合には、この場面での受信を避けるため、**わざとパスワードを何も入力せずに** **キャンセル** をクリックしてください。

なお、書き込み中のパスワードは下図のように「*」で隠されて表示されます。

パスワード(P):

テストが異状無く終了した場合には下図のとおり表示されます。

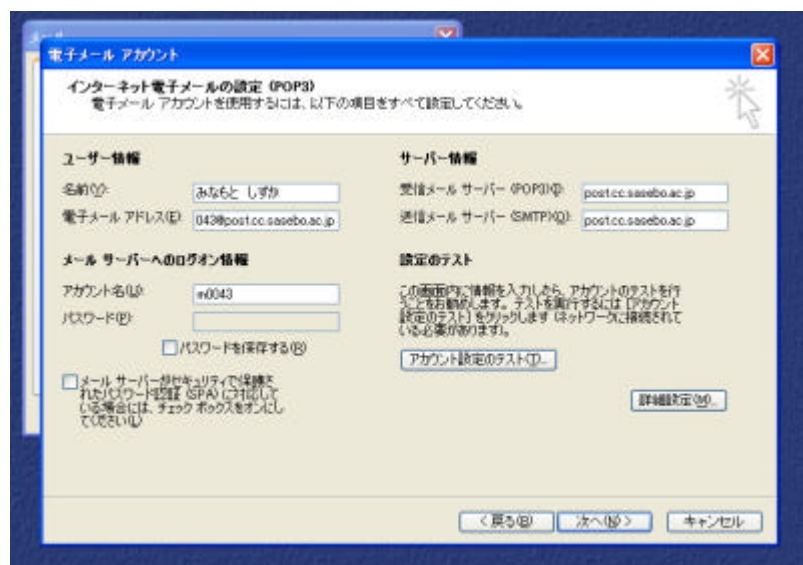


エラーメッセージが出なければテスト結果は良好です。

をクリックしてください。

- 6 . アカウント設定の終了

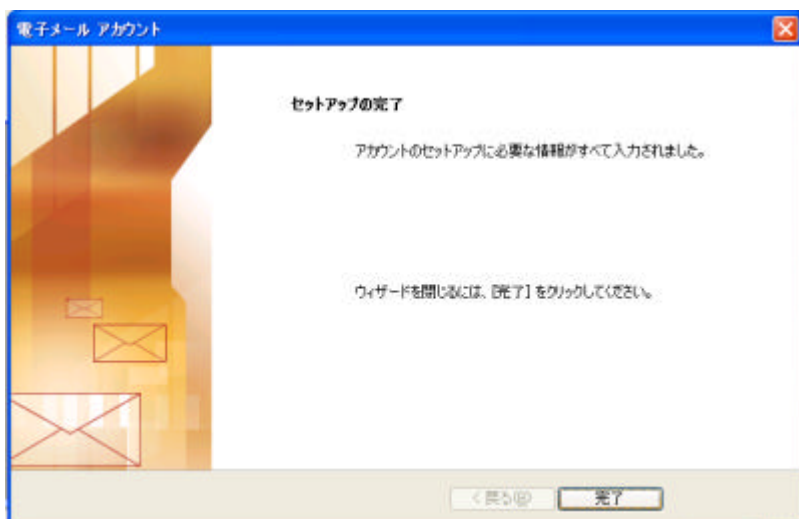
「テストアカウント設定」ボックスが消えると、下図のように「電子メールアカウント」の設定ボックスが見えます。



ボックス内右下の

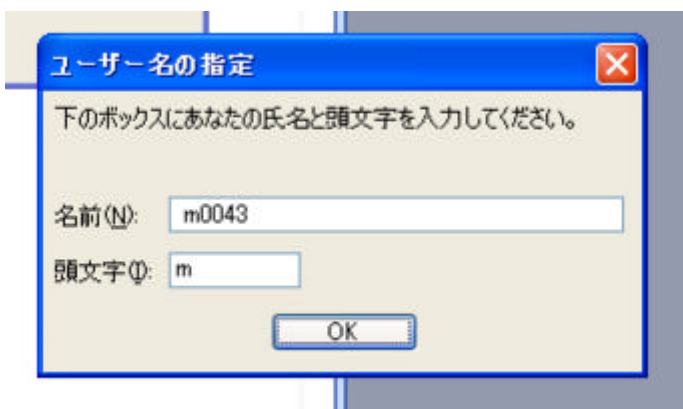
をクリックして下さい。

すると、設定ボックスが消え、「セットアップの終了」ボックスが現れます。



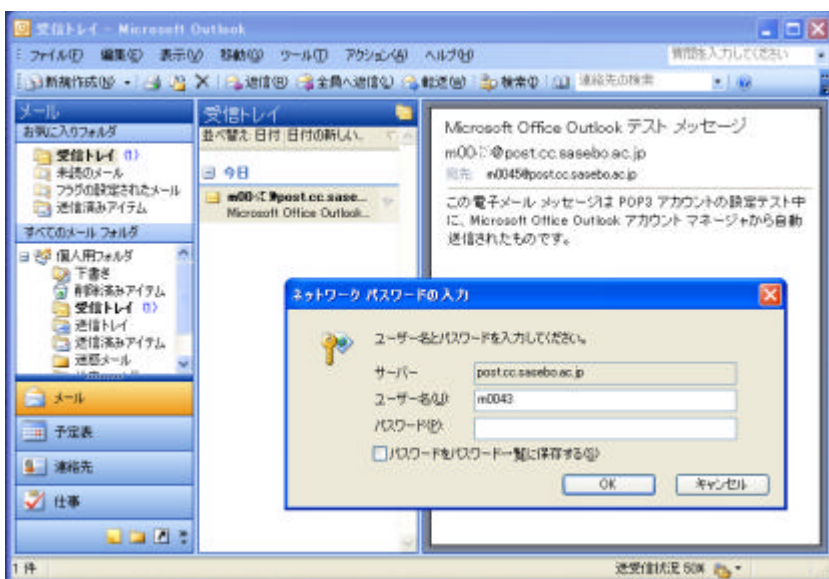
をクリックして下さい。

Microsoft Office (この Outlook, Word, Excel, PowerPoint の集合) を初めて設定したときのみ、下図のとおり「ユーザー名の指定」ボックスが現れます。そして後ろの画面には既に Outlook2003 が起動しています。



をクリックして下さい。

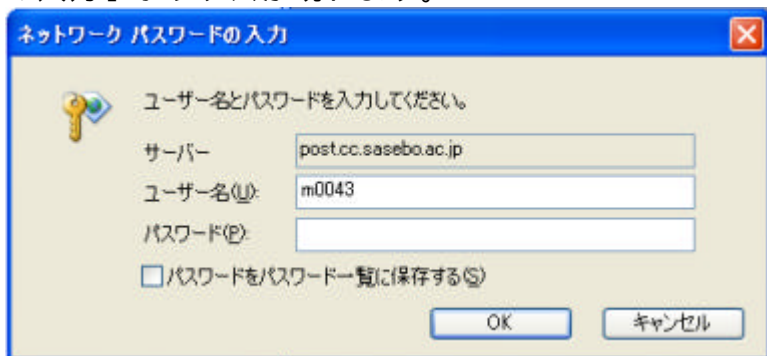
すると、下図のとおり既に起動した Outlook が見えるはずですが、



先の「インターネット電子メールの設定(POP3)」ボックスで

メールサーバーがセキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) に対応している場合には、チェックボックスをオンにしてください。

の「」にチェックマークを入れてない場合には下図のとおり「ネットワークパスワードの入力」ボックスが現れます。



ここで パスワードをパスワード一覧に保存する(S) の「」にチェックマークを入れれば次回

立ち上げではパスワード入力を省くことができますが、セキュリティが低下することと、パスワードを忘れやすくなるのでお薦めしません。

注意！

ここで受信されたメッセージは後で消えてしまいます。既に自分宛にメッセージが送られていると予想される場合には、この場面での受信を避けるため、**わざとパスワードを何も入力せずに** をクリックしてください。

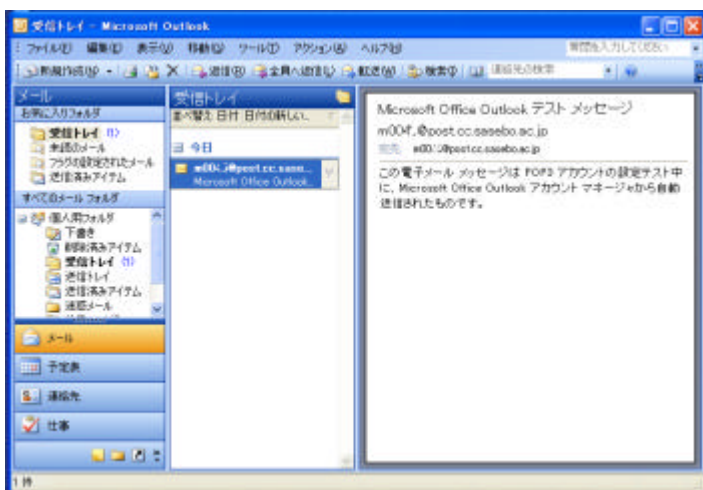


左図のようにパスワードを入力して をクリックし

て下さい。

書き込み中のパスワードは上図のように「*」で隠されて表示されます。

下図のとおり Outlook が「受信トレイ」を表示した状態で見えるはずです。

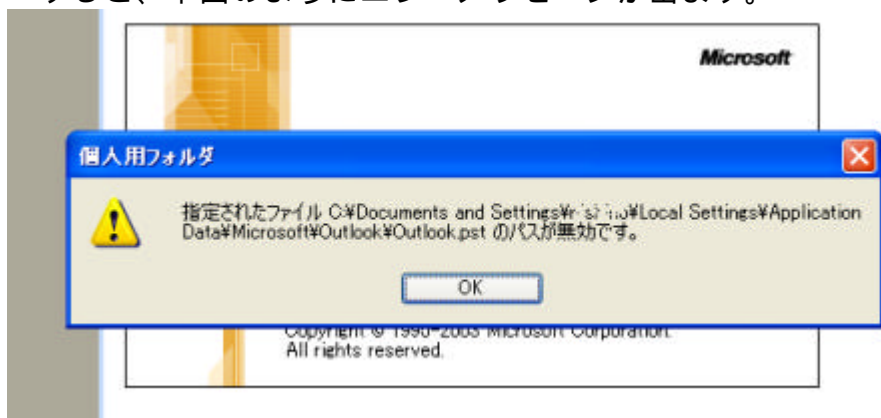


ここで、 をクリックして Outlook を閉じてください。

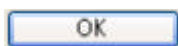
- 7 . 使用開始準備の仕上げ

ここで一度 Windows をログオフし、再度ログオンし、再度 Outlook を起動してください。

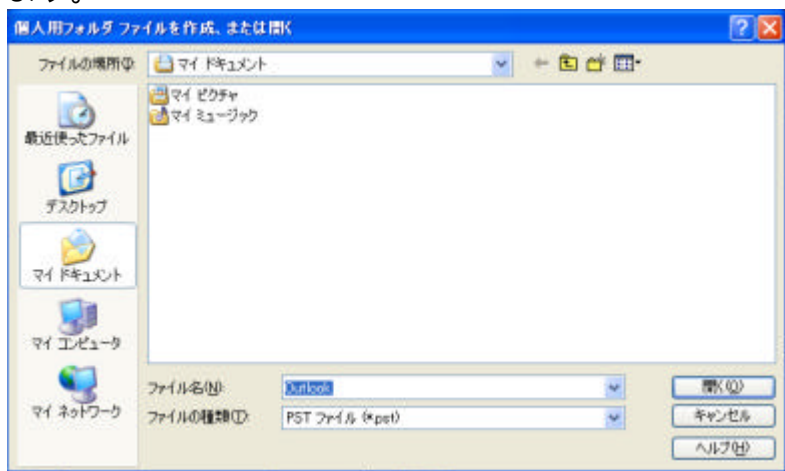
すると、下図のようにエラーメッセージが出ます。




これは本校システムでの独特のエラーで、初期設定後の一度だけに限った反応で、次回からは出ませんのでご安心ください。

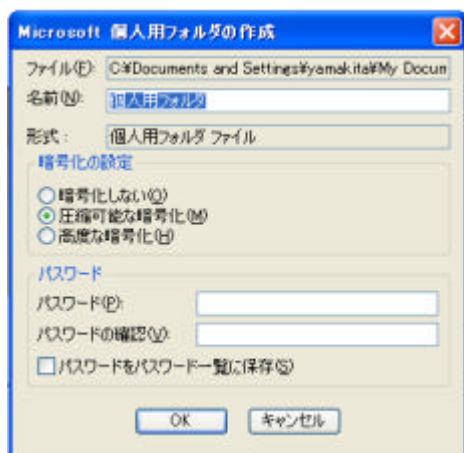
 をクリックして下さい。

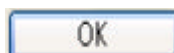
すると、下図のとおり「個人用フォルダファイルを作成、または開く」ボックスが現れます。



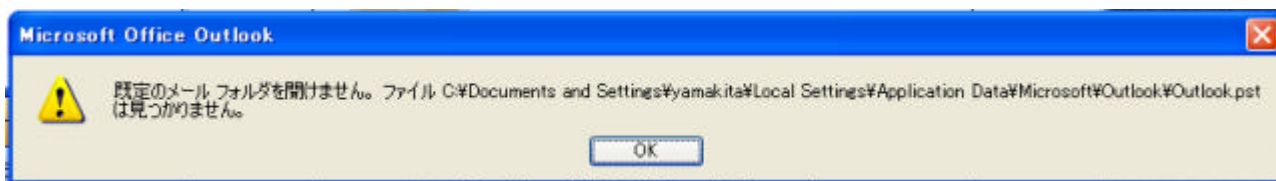
 をクリックして下さい。

すると、下図のとおり「Microsoft 個人用フォルダの作成」ボックスが現れます。



 をクリックして下さい

すると、下図のとおりエラーメッセージが出ます。



 をクリックしてください。

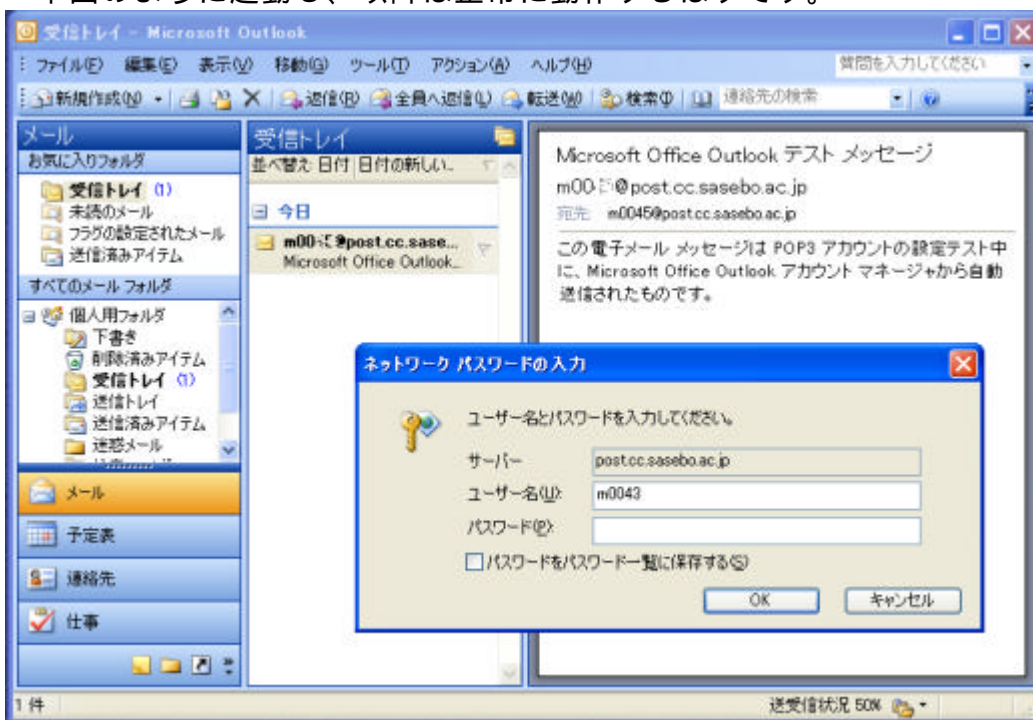
すると、**Outlook が終了して画面から消えてしまいます。**

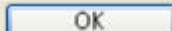
しかし、これも本校システムでの独特のエラーで、初期設定後一度だけに限った反応で、次回からはこのようなエラーはなくなりますのでご安心ください。

前述二つのエラーが出るのは、ローカル（その端末）に作った Outlook 用のユーザ毎の設定内容や送受信データを、自動的にサーバに格納したり引き出したりするための連携を作る仕組みが働いていることによるものです。最初の一回だけに限ったことですので、心配する必要はありません。

ここで再度 Outlook を起動してください。

下図のように起動し、以降は正常に動作するはずです。



パスワードをキー入力して  をクリックしてください。

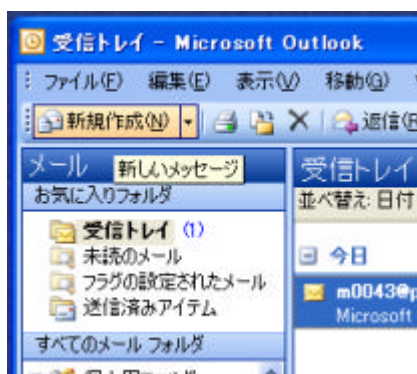
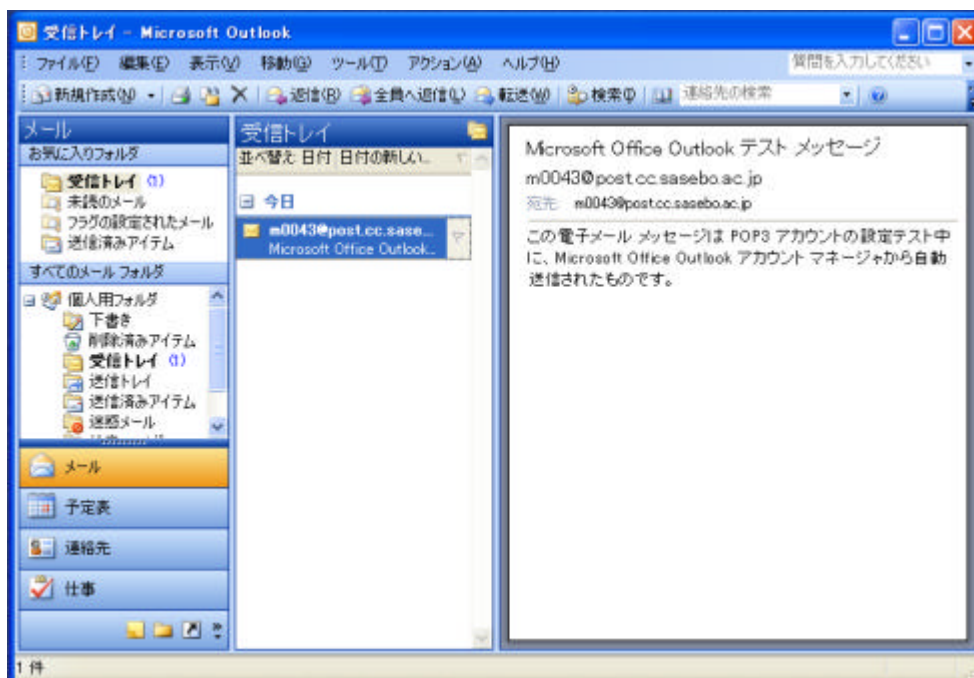
すると「ネットワークパスワードの入力」ボックスが消えます。

さてそれでは実際にメールの送受信をやってみましょう。

- 8 . メッセージの作成と送信

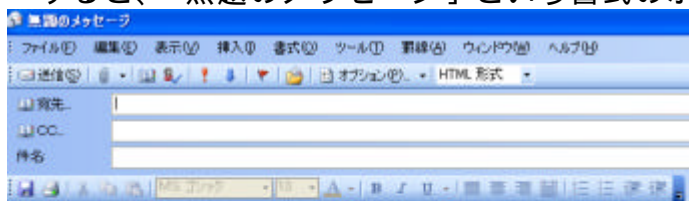
送受信される個々の文を**メッセージ**と言います。

Outlook の状態は下図のようになっているはずですが、受信トレイにはアカウントの試験で送信された自分宛のテストメッセージだけが受信されているはずですが。

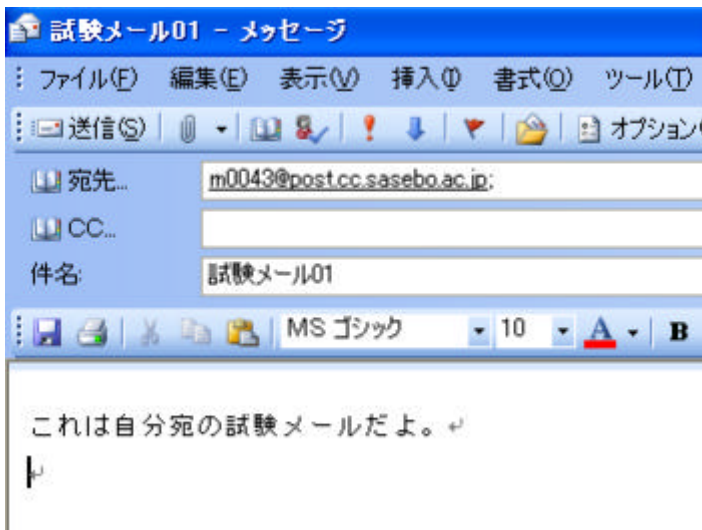


メッセージを作るために、Outlook 画面上部メニューの「新規作成(N)」をクリックしてください。

すると、「無題のメッセージ」という書式のボックスが現れます。



自分宛にメッセージを作って送信してみましょう。
電子メールでは他人宛でも自分自身宛も同じように送信できます。

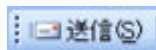
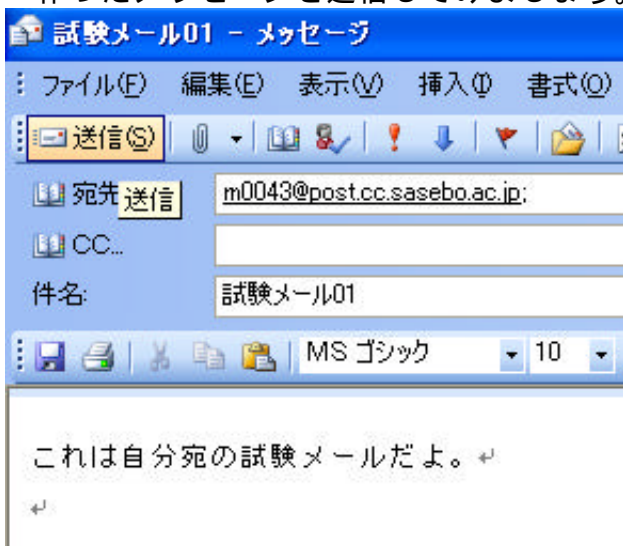


記入すべき最小限の欄の種類は、宛先、件名、本文です。

下側の大きな欄はテキスト枠と呼ばれ、メール本文を書く欄です。

- Outlook は宛先を記憶しており、ユーザが宛先の最初の文字を書いただけで自動的に予測して候補を表示しますので、それから選定して書き込むことができます。
- アドレスを「;」(セミコロン)で区切れば、複数のアドレスに送信できます。この場合、全ての送信先アドレスが相手に通知されます。
- 「CC」とは Carbon Copy (カーボンコピー)の略で、全く同じメッセージを複数の宛先を指定する際にこの欄にアドレスを書いてください。前記の方法(セミコロン区切り)と結果は同じです。

作ったメッセージを送信してみましょう。

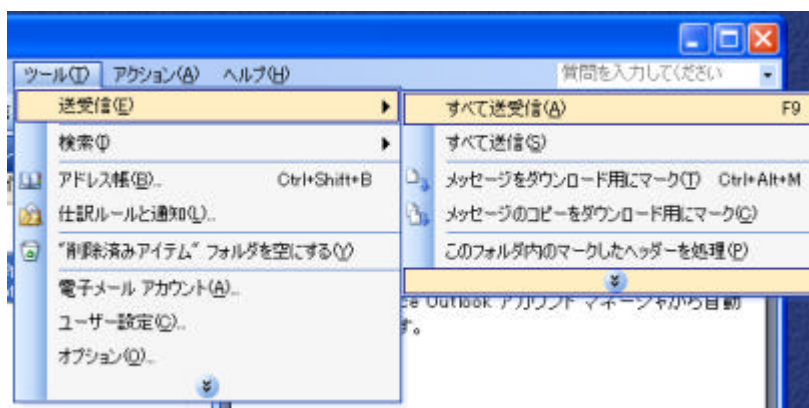


をクリックしてください。

送信され、メッセージのボックスが消えます。

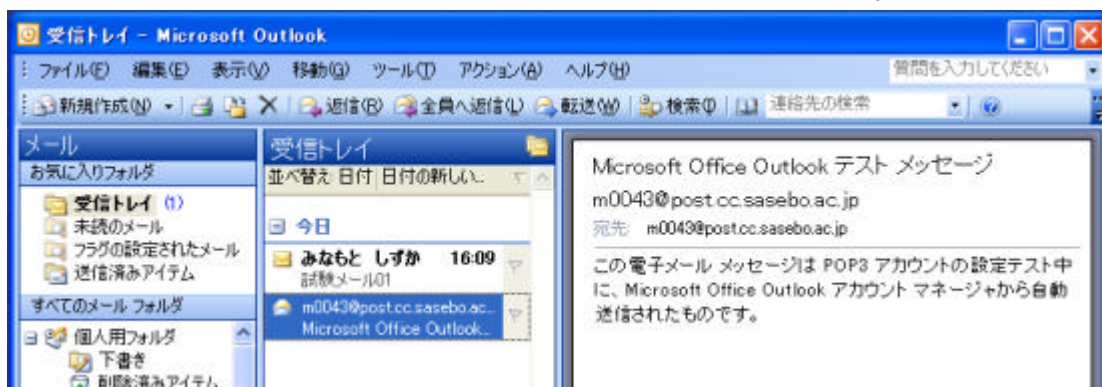
- 9 . メッセージの受信

前項目で送信したメッセージを受信してみましょう。

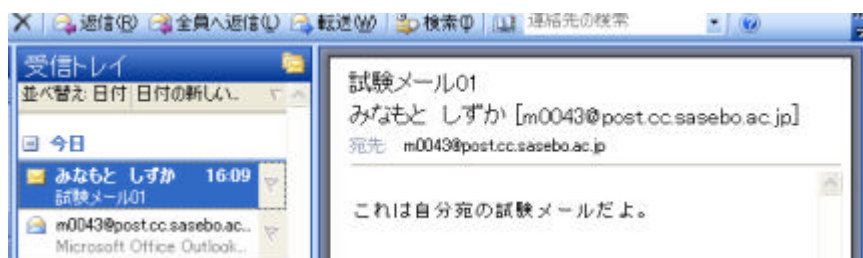


「ツール(T)」 - 「送受信(E)」
- 「すべて送受信(A)」
の順にクリックしてください。

するとメッセージが受信され、下図の例では中央の「受信トレイ」のリストに自分である「みなもと しずか」からのメッセージが加わっています。



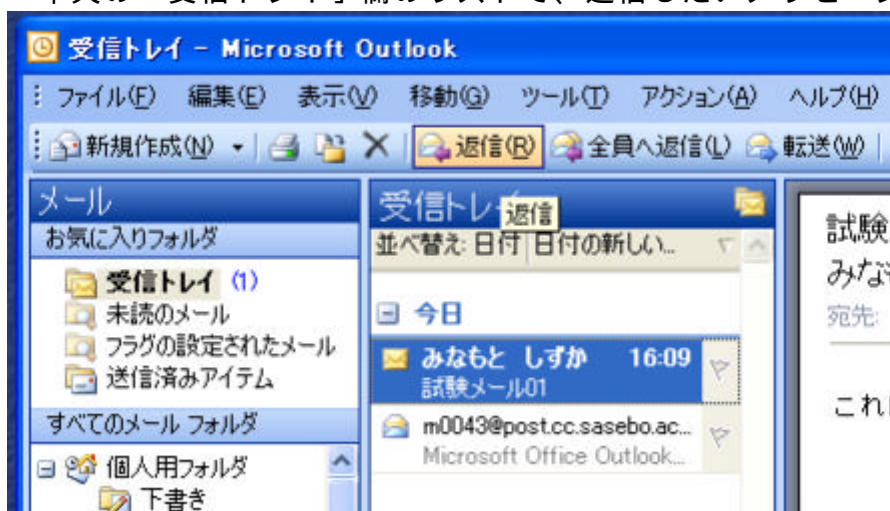
中央の「受信トレイ」のリストでそのメッセージを指定すれば、右側にメッセージの内容が表示されます。



- 10 . 返信

続けて、今受信したメッセージに対する返信メッセージを書いて送信して見ましょう。

中央の「受信トレイ」欄のリストで、返信したいメッセージを指定してください。

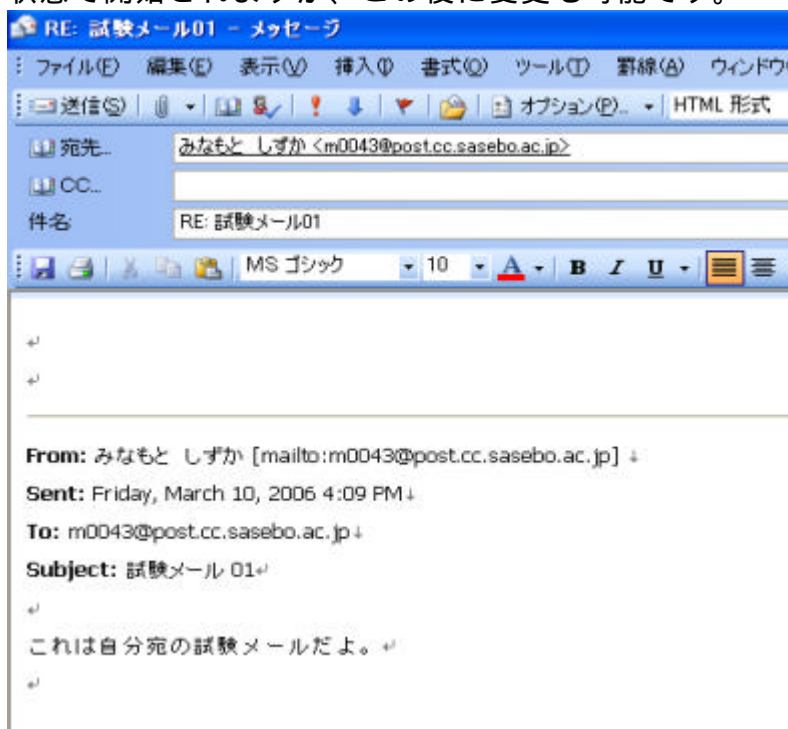


そして、



をクリックしてください。

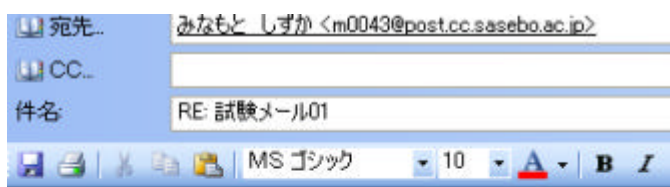
すると、下図のように返信の書式が現れます。入力欄には宛先と件名が既に記入された状態で開始されますが、この後に変更も可能です。



指定したメッセージの件名に返信を示す「RE:」の文字が自動的に追加されている。

本文を記入する部分

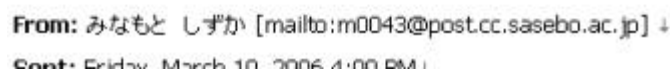
指定したメッセージを引用した文が自動的に書き込まれている。

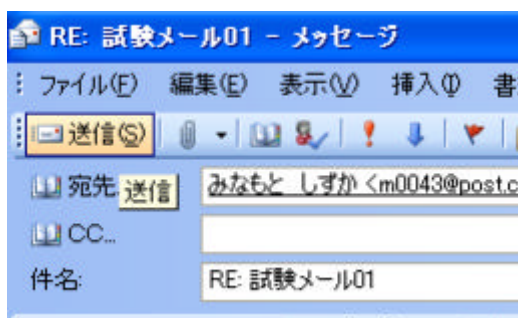


これは自分宛の返信メールだよ。

ヤッホー！

このように新たな本文を書き加えて下さい。

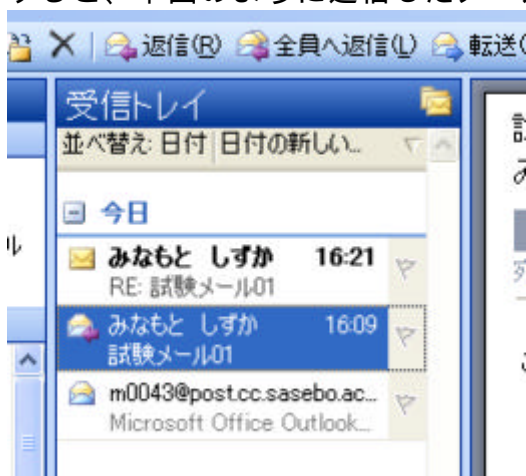




送信(S) をクリックしてください。

送信され、メッセージのボックスが消えます。

「 - 8 . メッセージの受信 」での手順に従って、「ツール(T)」 - 「送受信(E)」 - 「すべて送受信(A)」の順にクリックしてください。すると、下図のように返信したメールが受信されてリストに追加されるはずですが、



「RE:試験メール 01」が受信された。

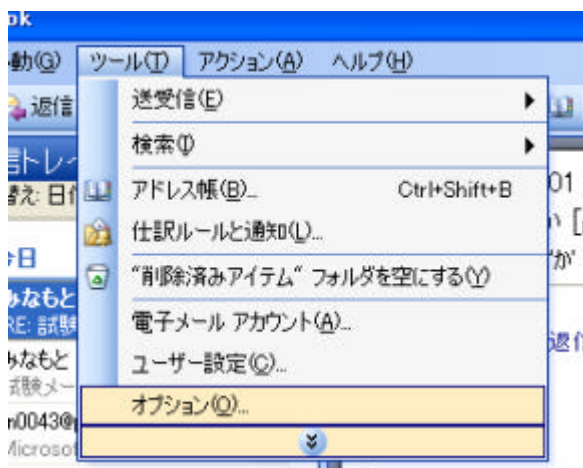
- 11 . 送信メッセージの形式選択

電子メールのメッセージは基本的にはテキスト（文字）データだけなので、多くのメールがこの形式のみに対応するよう設計されています。その場合、メッセージが表現できる事も文字だけで、通信される情報にはフォント（字の形の種類）や文字色の情報は含まないことになっています。

実は Outlook では HTML 形式がデフォルト（設定を変更しない場合の形式）になっています。この形式にはフォントや文字色の情報が含まれており、これに対応するメールで受信すれば多彩な表現が可能ではありません。

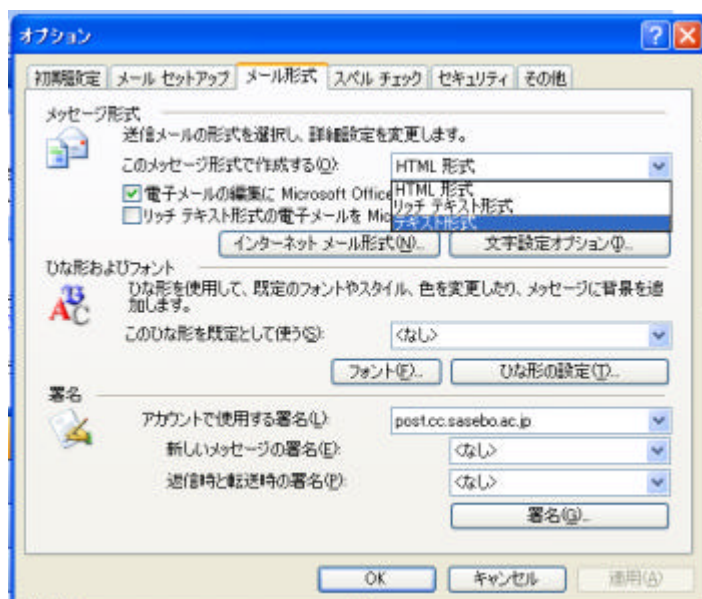
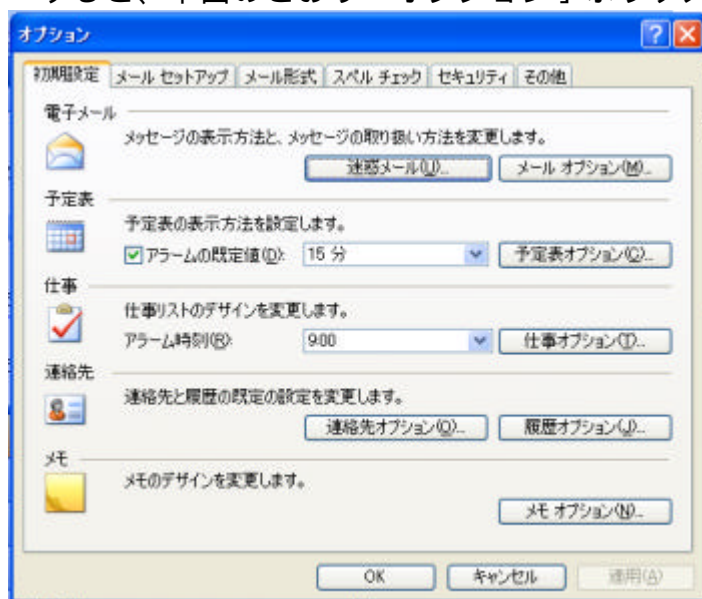
しかし、通信の相手側が HTML 形式に対応しているかどうかは分からない場合が多いですし、この形式のメッセージのデータ量はテキストのみの場合に比べて大きくなってしまいます。ですから、現在のネチケット（ネットワークを使う上での常識）から考えると HTML 形式は使わない方が安全でしょう。

そこで、**送信メッセージがテキスト形式になるよう設定を変更することを勧めします。**



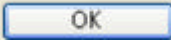
そのためには Outlook の上端メニューの「ツール(T)」 - 「オプション(O)」をクリックしてください。

すると、下図のとおり「オプション」ボックスが現れます。



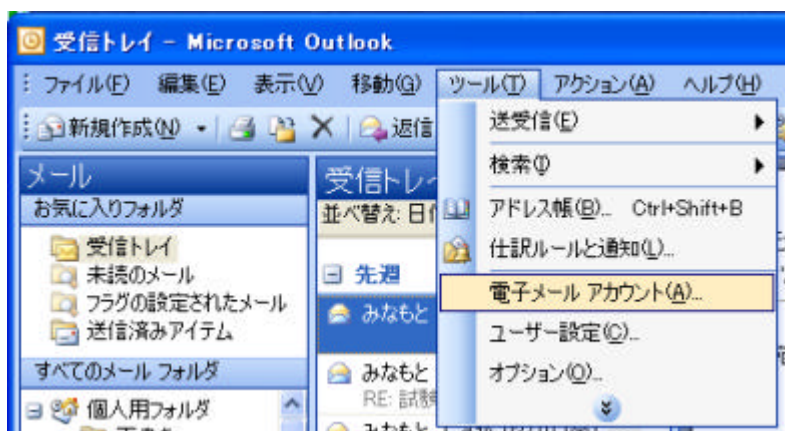
上端見出しの「メール形式」をクリックし、

「このメッセージ形式で作成する(O)」の右欄の「 」をクリックし、「テキスト形式」を選択してください。

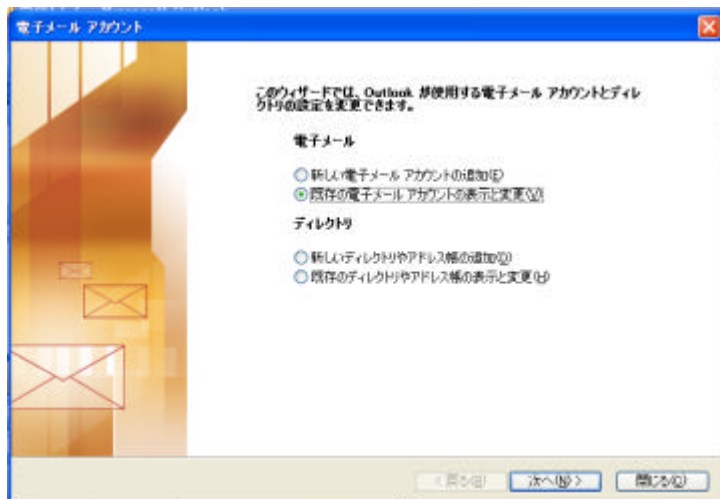
 をクリックすると変更変更内容が反映されます。

- 12 . 設定の誤りを訂正するには

電子メール関係の設定を変更したいときは下図のとおり上端メニューの「ツール(T)」 - 「電子メールアカウント(A)」の順に指定してください。



すると、下図のとおり「電子メールアカウント」の設定用ボックスが現れます。

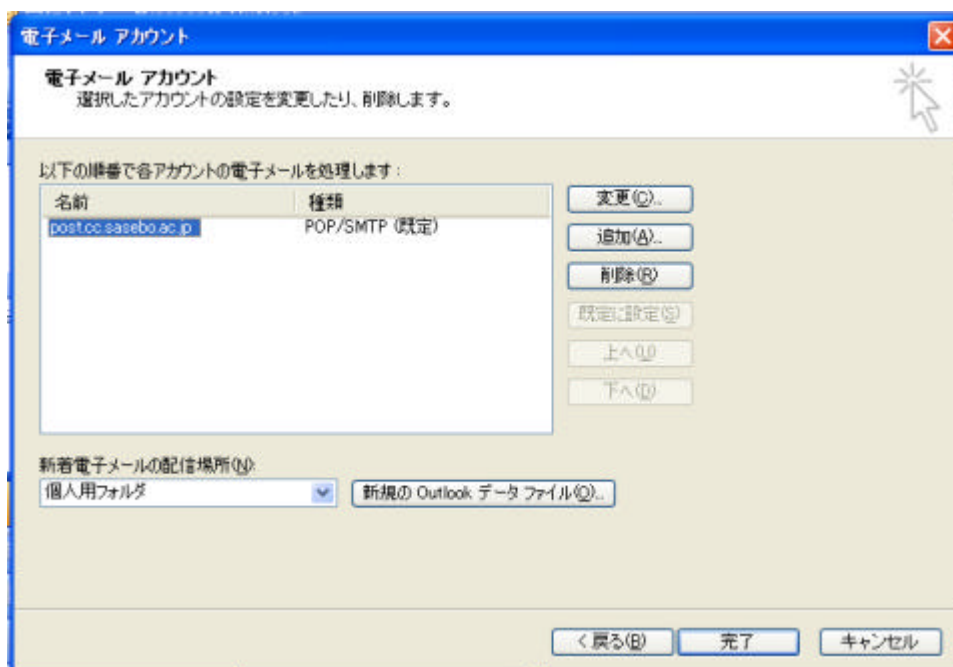


電子メール

- 新しい電子メール アカウントの追加(E)
- 既存の電子メール アカウントの表示と変更(V)

「既存の電子メールアカウントの表示と変更(V)」の方を指定して、

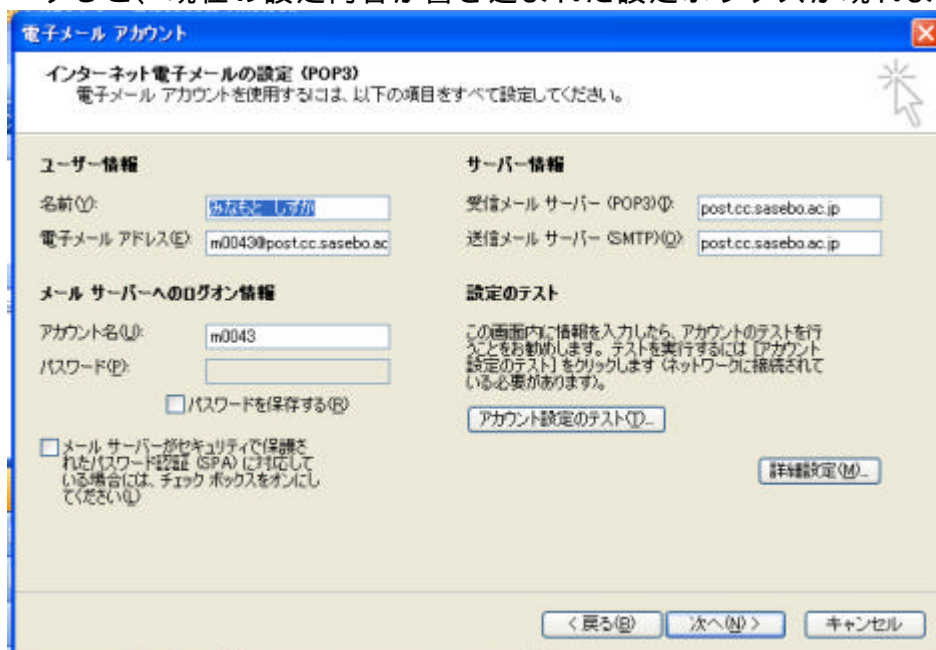
 をクリックして下さい。



「 - 4 . アカウント関係の設定 」以降での設定内容を変更するためには、

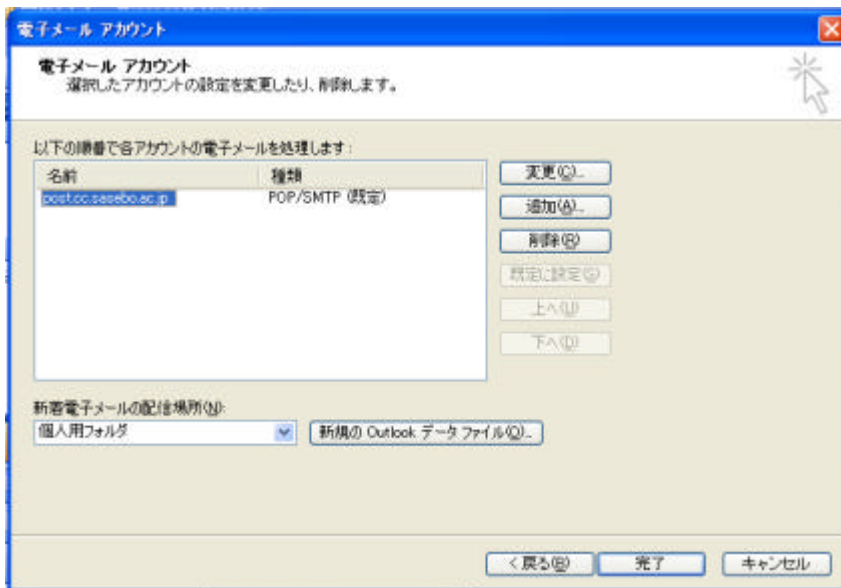
 をクリックして下さい。

すると、現在の設定内容が書き込まれた設定ボックスが現れます。



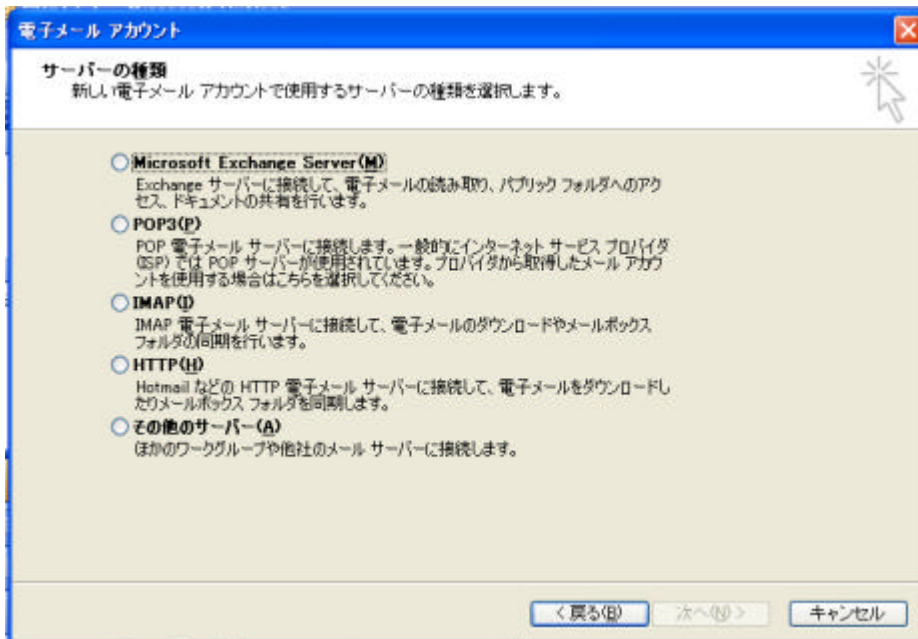
ここで内容を確認めて変更して下さい。

「 - 3 .受信方式の選択」での設定誤りがある場合には前ページと同じ下図の画面で、



追加(A)... をクリックしてください。

すると下図のとおりサーバの種類を選択するボックスが現れます。



ここで本校のシステムに整合させるためには「POP3(P)」を選択して新たな設定をしてください。

新しく設定したアカウントに名前をつけて保存し、その後、前のアカウントの方を削除して下さい。